

なぜブログは炎上するのか

2009年12月

慶應義塾大学 商学部

40719860 増木 大己

【要約】

インターネット上で誰もが簡単に情報発信が可能となる「ブログ」の普及により、「ブログ炎上問題」、すなわち、ブログ上での非常識な発言や反社会的な発言に対して読者から批判的なコメントが集中し、それが過激化した結果、ブログ内だけではとどまらない誹謗中傷・名誉毀損、プライバシー侵害へとつながる問題が多発しつつある。過去のブログ炎上データを元に行った分析の結果、ブログ炎上は不謹慎な発言、評価が曖昧な社会的争点、誹謗中傷、企業のやらせなどに対してネットユーザーから寄せられる一過性の性質を持ったコメントスクラムであり、まとめサイトやニュースサイト・ブログなどで言及されることで幅広いネットユーザーを巻き込み、規模をさらに大規模化させる傾向を持つことがわかった。

【キーワード】

ブログ、ブログ炎上

Why does the blog blaze up?

December 2009

Faculty of Business and Commerce, Keio University

40719860 Daiki Masuki

【Abstract】

The problem of causing the mental abuse, defamation, and invasion of privacy where it doesn't stay only in the blog since a critical comment concentrates from the reader on a thoughtless remark on "Blog flaming problem", that is, blog and an anti-social remark by the spread of "Blog" in which every information sending easily becomes possible on the Internet, and it is made extreme is happening frequently. The blog flaming is a comment scummage as a result of the analysis done based on past blog blazing up data with a transitory character that it is drawn to make remarks imprudent and evaluate a vague, social issue, the mental abuse, and prearranged performances etc. of the enterprise by the net user, and it has been understood it has the tendency to roll a wide net user by being referred in the summary site and news site blog, etc. , and to make the scale large-scale further.

【key words】

blog, blog flaming

【目次】

1 序論

問題意識..... - 4 -

2 先行研究

2-1 ブログ炎上様態の変化について..... - 4 -

2-2 サイバーカスケードについて..... - 6 -

3 事例研究

3-1 ブログ炎上プロセスとメッセージの特徴..... - 6 -

3-2. ブログ炎上を促進する機能..... - 11 -

4 仮説設定

仮説設定..... - 13 -

5 実証

調査方法と対象..... - 14-

6 分析結果

6-1 単純集計..... - 15 -

6-2 重回帰分析..... - 17 -

7 考察

7-1 各仮説への考察..... - 19-

7-2 全体への考察と今後の課題..... - 22-

8 参考文献 - 24-

9 付録資料 - 25-

1. 序論

問題意識

インターネット上で誰もが簡単に情報発信が可能となる「ブログ」の普及により、「ブログ炎上問題」、すなわち、ブログ上での非常識な発言や反社会的な発言に対して読者から批判的なコメントが集中し、それが過激化した結果、ブログ内だけではとどまらない誹謗中傷・名誉毀損、プライバシー侵害へとつながる問題、が多発しつつある。

「平成21年 サイバー犯罪の検挙状況等について」（警察庁）によれば、サイバー犯罪に関して都道府県警察の窓口で受理する相談の中で、名誉毀損・誹謗中傷等の案件が増加を続けている。2008年は1万件に達するペースで、上半期の相談の種類ではオークションを抜いて2位となった。検挙件数（07年）も、名誉毀損が79件（05年は47件）、脅迫が59件（同39件）と増加している。検挙件数とともに報道機会も増え、著名人の失言によるブログの炎上が話題となることもあって、いわゆる「ブログ炎上問題」は社会問題化している。また、ブログ炎上の対象が著名人から、若年層や企業などへと広がっていることでブログ炎上問題はいつ自分の身にふりかかってもおかしくない問題や企業の信用問題に関わる問題ともなりつつある。こうした現状を踏まえこの研究では「ブログ炎上」を過去のデータに基づき分析し、ブログ炎上を決定づける要因の探索とブログ炎上対策方法を探る。

2. 先行研究

この章ではブログ炎上問題を考えるにあたって必要なインターネット上でのユーザー行動に見られる特徴的な現象やブログ炎上の様態の変化をまとめ、ブログ炎上がどのような経緯を経て大規模化してきたかを先行研究を参照にして検証する。

2-1 サイバースカケードについて

ブログ炎上問題を考えるにあたって、まず最初にインターネット上で見られる特徴的な人間行動であるサイバースカケードについてのべる。

石川（2003）ではサイバースペースにおいて各人が欲望のままに情報を収集し、議論や対話を行っていった結果、特定の、たいていは極端な言説パターン、行動パターンに集団として流れていく現象のことをサイバースカケードと定義している。BBSやブログへの大量のコメント、特定の企業についての集団の議論、特定のサイトへ集団でアクセス、特定の商品を集団で購入など様々な私たちのサイバースカケードがおもとして見られ、共通事項はある集団行動や現象自体がさらなる集団行動や現象を引き起こすということ。またこうした現象が生じやすいのはインターネットが持つデイリーミーとエコチェンバーという特徴によるものである。個人の先入観に基づき他者を観察し、もともと持っていた考え方や偏見にとって都合がいい情報だけを集め自分の先入観を補強することを確認バイアスといい、印象の良い記事のみが強調されることをセレクトイブメモリという。インターネットではこの方向が顕著であるためメディアの特徴としてデイリーミー（自分新聞）としている。またインターネットでは独自の考えをもった人同士が簡単に集まることができ共感しあうことができるため似たもの同士で同調意識を高めあうことができる。この状況を音の反響効果を人工的に作り出す装置の名からエコーチェンバーという。インターネット上ではこうしたエコーチェンバーにより集団の分極化が加速度的に進行しサイバースカケードが発生しやすい環境であることが指摘されている。これからブログ炎上問題について考えるにあたってブログ炎上がこうしたインターネット上での特徴的な人間行動であるサイバースカケードと密接な関係があることを考慮に入れる必要がある。

2-2 ブログ炎上様態の変化について

現在のようにブログ炎上問題が大きく取り沙汰されるようになった背景にはブログ炎上のどのような変化があったのだろうか。この章ではパソコン通信時代からはじまるブログ炎上の形態の特徴について初期、中期、後期の3つに分けてその特徴をのべていく。

一) 初期 「フレーミング」型ブログ炎上

ブログ炎上という言葉の起源はパソコン通信が始まりだした初期に掲示板を中心として誕生した「フレーミング」型のブログ炎上が起源である。現在用いられている「炎上」という言葉は、もともと CMC (コンピュータを介して行うコミュニケーション)用語で、「フレーミング(flamming)」の訳から来ており、「コンピューターによって媒介されたコミュニケーションにおける敵対的で攻撃的な相互行為」と定義されている。(Thurow et al., 2004:70) 具体的な例として次のようなものがある。扇動的メッセージ、怒りを誘発するようなメッセージ、無礼で侮辱的なメッセージ、多分に冒瀆的で不愉快な罵倒、逸脱、わいせつ、不適切な言語、雑談の過熱、嘲笑的コメント などである。フレーミングは CMC における負の側面として位置づけられており CMC における「社会的合図の減少」から導き出されたものである。(社会的合図の減少=性別、地位、表情、抑揚の欠落) 文字中心の CMC では対面的なコミュニケーションよりも罵倒、侮蔑、呼び捨て、悪意を含みやすいという見解は伝統的な CMC の実験においてかなり高い割合で実証されている。(Thurow et al., 2004:71)

二) 中期「コメントスクラム」型ブログ炎上

続いて個人サイトからブログ創世期にかけて誕生した「コメントスクラム」型のブログ炎上である。ここでいうコメントスクラムとは個人掲示板に多数の書き込みが殺到し、あるいは誹謗中傷などの発言によって荒らされることで、管理人が対応できずにそのサイト自体が閉鎖してしまうなどの状態になることを指す。掲示板で起きるフレーミングは、いわば「公園で悪口を言われている」ようなものであって、誹謗中傷されたとしてもスルー(無関連化)しやすい。しかし、ブログの登場によってコメント欄を通じてブログ管理人、すなわちブログ著者に応答責任が生じるため、スルーしにくく、より「サイトを潰す」という悪意も強くなった。また、コメントをする側はたいてい匿名が許されているため、攻撃を躊躇させる仕組みに乏しい。こういった観点から、初期のフレ

ーミング型とは異なる新たな現象としてコメントスクラム型ブログ炎上が発生しはじめた。

三) 後期「大炎上」型ブログ炎上

最後はブログ炎上が検索サイトやニュースメディアに取り上げられることでブログ炎上が無関係のネットユーザーにまで広く拡大し、さらなる炎上を引き起こす「大炎上」型である。またブログの認知度高まり、誰しもがいつでもどこでも簡単に更新できることになりで炎上のリスクは飛躍的に高まった。有名人などもブログを開設することが一般化したためブログ外での言動や行為に対してブログにコメントスクラムが押し寄せる、という現象も見られるようになった。検索技術の発展により インターネット上でブログ管理人の様々な個人情報詮索され単にブログでの発言にとどまらない責任追及現象が生じ始めた。それをニュースメディアがとりあげることで無関係の第三者が大量に押し寄せるようになり、ブログ炎上問題は社会問題となりはじめている。

以上がパソコン通信時代から始まり現在に至るまでのブログ炎上様態の特徴の変化である。

3. 事例研究

この章ではブログ炎上についてその発生から鎮火までのプロセスを検証するとともに、炎上したブログに見られる特徴的なメッセージの種類を過去の事例を参考にして検証を行う。

3-1 ブログ炎上プロセスとメッセージの特徴

この節ではブログが炎上し鎮火するまでのプロセス、そしてブログ炎上を引き起こすメッセージの特徴について述べる。

ブログ炎上が発生するプロセスについては主に4つの段階に分類することができる（尾形, 2009）

第1段階 「発火」

この段階では投稿された記事に対して、読者を中心に批判的なコメントが寄せられ始める。

第2段階「炎上」「燃料投下」

サイバースケードが発生し、急激なアクセス増・コメントの増加が生じ、管理人の対応がさらにその流れを加速させていく段階

第3段階「発掘」「突撃」「追跡」

過去の記事やSNSなどから管理人の個人情報が出され、記事への批判から過去の違法行為への追及や所属組織への電話や直談判・尾行行為などが行われる。

第4段階「鎮火」

コメントや掲示板への書き込みが減り、批判的なコメントも少なくなる。

以上のようにブログの炎上は上記のような4つの段階を経て、炎上から鎮火へと移行していく。続いてブログ炎上を引き起こすメッセージの特徴について述べる。

炎上したブログ各々のケースに目を向けると、その特徴が一様であるとは必ずしもいい切れない。ブログ炎上を招くようなメッセージの特徴については、おおよそ以下の4つに分類される（伊地知、2007）

- ①不謹慎発言や反社会的行為の自慢
- ②評価が曖昧な社会的争点についての言及
- ③特定の対象への誹謗中傷
- ④企業のPRと結びついた「やらせブログ」

それぞれの特徴に当てはまる事例を以下にあげる

下記の炎上事例については萩上チキ, (2007)『ウェブ炎上 ネット群衆の暴走と可能性』を参考にまとめた。

- ①不謹慎発言や反社会的行為の自慢

「乙武 洋匡（おとたけひろただ）ブログ炎上事件」

2006年9月 秋篠宮妃が男児を出産した際について「五体不満足」の著者でスポーツライターでもある乙武氏が自ブログに「世間は昨日からめでたいめでたいと騒いでいるが、一つの命が生まれたことがめでたいのか、それとも男児だったからめでたいのか？ どちらにせよこれで大事な議論は先送りになるだろう」といった趣旨の内容を掲載。この記事が2ちゃんねるやニュースサイトなどで取り上げられると「無神経」「おまえのあたまがめでたい」「不敬」といった批判のコメントが2000件近く相次ぎ、2ちゃんねるで大量のスレッドが作られた。乙武氏はその日のうちに「深くお詫びします」と題し、「親王のご誕生を『めでたくない』と考えているように受け取られる文章を書いたことを、深く、深く反省しています」となど謝罪した。しかし続けて「男であろうが、女であろうが、皇室であろうが、民間人であろうが、命の重さは等しく、尊ばれるもの。そう思っていた僕には、内親王がご誕生した時よりかはるかに舞い上がった今回の慶事ムードに違和感を覚えてしまったのです」などといった、読み手からすると「言い訳」ともとれかねない内容も加わっていたため、さらなる炎上を招いた。皇室問題に関しての不謹慎な発言と対応の不手際が炎上を引き起こした例である。

- ②評価が曖昧な社会的争点についての言及
- #### 「青山学院大学准教授ブログ炎上事件」

2008年4月に差し戻し控訴審で判決が言い渡された山口県光市の母子殺害事件の被害者の母親と赤ちゃんに対して「この事件は1.5人だ（まったくの個人的意見だが赤ん坊はちょっとしたことですぐ死んでしまうので、傷害致死の可能性は捨てきれないと思っている）」とブログに書き込んだところ、批判的なコメントが数百件以上殺到し、ブログが炎上した。事態はこれだけにとどまらず、勤める大学への電話やメールによる抗議や学校が公式に運営している掲示板にも抗議が殺到し、ついには学長が謝罪文をホームページに掲載する事態にいたった。曖昧な社会的争点についての安易な発言によってその問題を真剣に考えている人たちの反感をかったために炎上した例である。

③特定の対象への誹謗中傷

「TDC炎上事件」

2006年5月 東京ドームシティで催されたコスプレイベントで働いていた女性が参加者について「ドン引き」「同じ世界に生きる人類とは思えない」とブログに投稿。また企業の終礼で「土日はコスプレイベントで変な人がいっぱい来ますが頑張りましょう」という挨拶が行われていたことを記した。この投稿に対して2ちゃんねるなどに批判的なコメントが寄せられ騒動となった。アルバイトの女性の、コスプレイヤー達に対する中傷的な発言だけでなく、企業もそのようなコスプレイヤーを軽視するかのような発言がネットユーザーたちの逆鱗に触れ、最終的に東京ドームシティが主催者としての責任をとわれ従業員教育不足を謝罪することになった。

④企業のPRと結びついた「やらせブログ」

「ソニー バズマーケティング失敗事件」

ソニーのウォークマンのプロモーション活動の一環として設立されたブログが、広告目的であることを隠蔽し一般人のウォークマン体験記という体裁を偽装していたため、批判的なコメントが殺到し数日で閉鎖に追い込まれた事件である。このような「やらせブログ」が批判される背景には、企業がネットユーザーに対して持つ「暗黙の了解」をきちんと理解していなかったという理由があげられる。ここで言う暗黙の了解とは「ブログはあくまで、ブログを書く当の個人、企業の率直な意見を表す場である」との認識である。つまり、ブログを閲覧するネットユーザーはブログに書いてある内容を「個人の考え」と認識するからこそ、一定の信頼をおいて安心して読むことができるのである。しかしながら、このブログでは一般的なユーザーが書いてあるように見せかけて

実は関係者に良い部分のみを語らせたため、騙された、裏切られたという感情をもったネットユーザーたちによってブログが炎上してしまったと考えられる。また最近の事例では芸能人や政治家のテレビや雑誌などでの失言や反社会的行為に対する批判が芸能人ブログのまったく無関係の記事のコメント欄に向けて向けられることもある。

3-2 ブログ炎上を促進する機能

こうしたブログ炎上を語る上で重要となるのは「ソーシャルブックマーク」「まとめサイト」「ニュースサイト」といったブログ炎上をより極大化させる仕組みである。この節ではこれらの機能がブログ炎上にどのような役割を果たすかを検証していく。

1) ソーシャルブックマーク

ソーシャルブックマークとはよく使うサイト、後で見ようと思うサイトの URL を共有することのできるサービスのことである。従来のブックマークであれば、ブラウザ上に人的にブックマークをするのみで、基本的にそのコンピューターでしかブックマークを見ることはできなかったが、ソーシャルブックマークの登場によりウェブ上にアカウントをとれば保存したサイトのリストは外出先からどのパソコンでも見ることができるだけでなく、他の人と共有することも可能となった。また、多くの人があるサイトをブックマークすることで、各ソーシャルブックマークサービスの流行により、今どのブログが最も話題を集めているブログかということが誰にも簡単にわかるようになった。また多くのソーシャルブックマークに備わるタグ機能により、同じテーマやトピックに関する話題のブログも見つけることが容易となった。

2) まとめサイト

まとめサイトとはネット上の一つの話題について、それまでの経緯に関する情報を報道資料やブログ、掲示板の書き込みから収集し、整理して見やすくしたサイトのことである。ブログを見そびれたり、話題に乗り遅れても、「まとめサイト」を閲覧すると、事の経緯をよく理解できるため、炎上へ参加する人を飛躍的に増やす機能をもったサイトのことである。

まとめサイトがブログ炎上に果たす役割については「2008年 毎日新聞社ブログ炎上事件」を例にとり述べる。事件が起きたのは、大手新聞社毎日新聞社が英字版ニュースサイトで9年以上にわたり、日本人の誤解を与えるような

記事を配信していたことによるものである。記事の内容は卑猥で、性的なものを含むなど見た人に不快感や怒りを覚えさせるようなもので、しかも英字ニュースサイトあったために「世界に向けて日本人の名誉を汚した」として掲示板やSNS、ブログ、wikiといった様々なコミュニティで毎日新聞社への批判的な書き込みが爆発的に増加し、大規模な活動へと発展し、その結果広告売上の大幅な減少が生じたという事件である。この炎上事件に大きな役割を果たしたのがウィキを使った「まとめサイト」である。ウィキとは不特定多数のネットユーザーたちが集めた情報を共有してつくりあげる、ネット上の無料のソフトウェアのことで、この機能を用いたまとめサイトにより事件の経緯はもちろんのこと、皆で効率良く抗議を行うために必要な情報が用意されていた。主な特徴としては、事件の概要と経緯、問題となった記事、記事翻訳、抗議方法、問い合わせ先一覧、問合せ結果などが掲載されており、事件をあとから知った人でも、全容が理解できるようになっており、事件が風化しにくくなっていた。

3) ニュースサイト

ニュースサイトは中規模ニュースサイトと大規模ニュースサイトの二つに分類することができる。中規模ニュースとはネット専門のニュースサイトが発信するニュースで、インターネットにまつわる事件が比較的取り扱われることが多い。ブログ炎上が中規模ニュースサイトで報道されることで炎上が大きくなり、問題となっているブログを知らないユーザーが批判に参加し、ブログの炎上が大規模化していく。そして大規模ニュースサイトは、ヤフーニュースやテレビといった一般的に有名なメディアのことをさし、これらのメディアで取り上げられることによってブログの炎上は長期化、大規模化していく。

このような機能やサービスがネットユーザーの間に認知されたこともブログ炎上が大型化につながった要素の一つとみなすことができるだろう。

以上、先行研究と事例研究より、ブログ炎上問題が発生する背景には、炎上を招きやすい特徴的なメッセージと炎上を拡大する様々なサービスや機能の発達があることがわかった。続いての仮説設定ではこれら、炎上したブログに特徴的なメッセージと炎上を促進する機能・サービスが実際にブログ炎上とどのような関係があるかについての検証を行って行く。

4. 仮説設定

仮説設定

以上の先行研究・事例研究を参考にして、本研究ではブログへのコメント件数をブログ炎上度と定義する。炎上度をブログへのコメント数と定義したのは、作者に向けたメッセージとして信憑性が高いメッセージだからである。どのような要因がブログ炎上度に影響しているかについて1) ブログから発信されたメッセージに起因する要因について 2) ブログ炎上を促進する機能・サービスに起因する要因についての二つに大別して仮説を設定する。

1) ブログから発信されたメッセージについての仮説

H1: ブログの炎上期間とブログ炎上度は正の相関がある

事例研究よりまとめサイトやニュースサイトの登場によりブログ炎上の大型化はブログ炎上期間の長期化を引き起こすということがわかった。ブログの炎上期間について先行研究では具体的な基準は設けられていないが事例研究ではブログ炎上がサイバースケードに伴う急激なアクセス・コメントの増加と説明されていることから、炎上機関をブログの記事にコメントが投稿されてからコメントが1日以上途切れるまでの期間と定義する。

H2: ブログの文字数とブログ炎上度は正の相関がある

先行研究の結果炎上を引き起こす契機となったブログの記事には、メッセージの特徴があることがわかった。そこでメッセージの分量が多ければおおいほどブログ炎上度が高まるのではないかという仮説を立てた。この仮説では過去の炎上を引き起こしたブログ記事の文字数を測定し、ブログの文字数が炎上度と正の相関があるかを検証する。

H3: メッセージ性の高さとはブログ炎上度には相関がある

事例研究でブログ炎上を引きやすいメッセージの種類を述べた。これらメッセージ性の高さそれぞれのブログ炎上度と相関関係について調べた。メッセージの種類は1) 不謹慎発言や反社会的行為の自慢、2) 評価が曖昧な社会的争点についての言及、3) 特定の対象への誹謗中傷、4) 企業による社会的責任の不履行に関する言及 5) その他の5種類である

H3-1: 不謹慎発言や反社会的行為の自慢に関するメッセージ性の高さとはブログ炎上度は正の相関がある

H3-2: 評価が曖昧な社会的争点に関するメッセージ性の高さとはブログ炎上度は正の相関がある

H3-3: 特定の対象への誹謗中傷に関するメッセージ性の高さとはブログ炎上度は正の相関がある

H3-4: 企業による社会的責任の不履行に関するメッセージ性の高さとはブログ炎上度は正の相関がある

H4: 著者実名性とブログ炎上度は正の相関がある

コメントスクラムによりブログ炎上を引き起こすネットユーザーの多くは匿名であることが指摘されているが、著者が実名である場合ブログ炎上度とはどのような関係があるのだろうか。この仮説では著者の実名性がブログ炎上度とはどのような関係があるかを検証する。

また以下の仮説に関しては探索的な分析を行いブログ炎上度との関係を検証することとした。

2) ブログ炎上を促進する機能・サービスに起因する要因について

H5: ソーシャルブックマーク数とブログ炎上度は正の相関がある

事例研究より、炎上したブログについての話題を共有する機能としてソーシャルブックマーク機能を取り上げられた。炎上したブログにつけられたソーシャルブックマーク数が多いほど、他のネットユーザーとブログ炎上についての話題が共有できるようになり、ブログの炎上が高まると仮定し、仮説の検証を行う。

H6: 言及ブログ数とブログ炎上度は正の相関がある

先行研究で述べられた通り、現在のブログ炎上は炎上ネットニュースやブログで取り上げられることで無関係なネットユーザーにも炎上への関与を促す可能性が生じる大規模炎上型炎上となっている。そこで、炎上しているブログへの言及とブログ炎上度には正の相関があると仮定し仮説の検証を行う。

H7: まとめサイトの有無やニュースサイトでの言及とブログ炎上度には正の相関がある

まとめサイトやニュースサイトの有無とニュースサイトの有無がブログ炎上度には正の相関があると仮定し、仮説の検証を行った。

5. 実証

調査対象と方法

これら仮説の検証にあたり、ブログの選出にあたってはブログ炎上に関する様々なブログについて紹介をおこなっている「炎上ブログ」(<http://blog.goo.ne.jp/enjoublog>)を参考にした。

また、ブログ炎上の管理者対応として炎上したブログを閉鎖、削除している事例も多く見受けられ、そのような場合は炎上当時有志によって保管されたウェブ魚拓（指定されたウェブページをキャッシュとして保管しておくことが可能なサービス）を参考にして、測定を行った。ニュースサイト、まとめなどで詳しく概要が取り上げられているブログ炎上の事例に関してはニュースサイト、まとめサイトなどを参考にしてデータの補足を行った。2006年から2009年のブログ炎上事例のうちデータの抽出が可能であった63例のデータを用いて分析を行った。収集したデータは以下の通りである。

1) 炎上日数

ブログの炎上期間は、該当記事のコメント件数はブログの記事にコメントが投稿されてから コメントが1週間以上途切れるまでの期間とした。

2) 投稿コメント数

炎上記事へのコメント数とした。なおコメント欄が閉鎖されているものや、封鎖されているものについてはなるべく除外し、ウェブ魚拓サービスで当時のブログが保管されているものに関してはそのウェブ魚拓からコメント数の抽出を行った。

3) 文字数

炎上を引き起こす契機となったブログの記事の文字数を測定した。

4) ソーシャルブックマーク数

炎上したブログの記事につけられているソーシャルブックマーク数を測定した。

なお利用するソーシャルブックマークは国内で最も利用者の多い「はてばブックマーク」を選定した。

5) 言及ブログ数

炎上したブログが他のブログでどれほど言及されているかを測定した。

測定方法としては google ブログ検索を用いて、炎上したブログ記事へのリンクと「ブログ 炎上」というキーワードが含まれているブログの件数を言及ブログ数と定義した。

6) まとめサイト、ニュースの有無

炎上の大規模化を引き起こすまとめサイトやニュースサイトでの記事があるかを測定した。

7) メッセージ性の高さ

炎上した理由のメッセージ性の高さを分類し、最も炎上を引き起こしやすいメッセージの内容を調査した。分類する項目としては先行研究を参考に、

- ①不謹慎発言や反社会的行為の自慢によるメッセージ性が高いもの
- ②評価が曖昧な社会的争点についてのメッセージ性が高いもの
- ③特定の対象への誹謗中傷のメッセージ性が高いもの
- ④企業による社会的責任の不履行についてのメッセージ性が高いもの
- ⑤その他のメッセージ性が高いもの

とした。④の企業による社会的責任の不履行に関しては、先行研究で取り上げた企業の PR によるやらせブログを企業の社会的責任の不履行として解釈して変更した。

8) 著者の実名の有無

炎上したブログの著者の実名の有無を測定した。ブログ筆者の実名の有無がブログ炎上度にどのような影響を及ぼすかを測定する。

6. 分析結果

6-1 単純集計

単純集計の結果は下記の通りとなった。

先行研究・事例研究を参考にして、本研究ではブログへのコメント件数をブログ炎上度と定義する。炎上度をブログへのコメント数と定義したのは、作者に向けたメッセージとして信憑性が高いメッセージだからである。

単純集計の結果、特に大きなばらつきが見られたのがブログコメント数、文字数である。ブログコメント数については、芸能人のブログがテレビで取り上げられ多くの視聴者から寄せられた懲戒的なコメントから政治的な問題に対する、批判的な意見を中心としたコメントといった多岐にわたる炎上ブログをとりあげたためこのような結果になった。文字数については、写真中心の記事を掲載し、炎上したブログから、長文にわたって持論を展開し炎上したブログなどの種類が含まれているためである。またソーシャルブックマーク数や言及ブログ数についても、ばらつきがあった。

表1 単純集計結果

	ブログ コメント 数	炎上 日数	文字数	言及 ブログ 数	ソーシ ャルブ ックマ ーク数	ニュー スとま とめサ イト	メッセ ージ性	著者名
有効値	62	62	59	63	60	63	63	63
欠損値	1	1	4	0	3	0	0	0
平均値	945	8.27	885.58	14.35	19.97	0.89	1.87	0.73
標準偏 差	1778.084	11.877	1107.977	25.08	58.548	1.138	0.975	0.447
最大値	10000	71	5057	135	426	2	5	1
最小値	40	1	7	0	0	0	1	0

表2 メッセージ性についての単純集計

	yes	no	合計
不謹慎発言や反社会的行為の自慢によるメッセージ性が高いもの	28	35	63
評価が曖昧な社会的争点についてのメッセージ性が高いもの	18	45	63
特定の対象への誹謗中傷のメッセージ性が高いもの	8	55	63
企業による社会的責任の不履行についてのメッセージ性が高いもの	6	57	63
その他のメッセージ性が高いもの	3	60	63

6-2 重回帰分析

1) ブログのメッセージと炎上を促進する機能・サービスについての仮説の検定

ブログコメント数を従属変数、炎上日数、文字数、ソーシャルブックマーク数、言及ブログ数を独立変数として重回帰分析を行った。

分析の結果は下記の通りとなった。

H1: ブログの炎上期間とブログ炎上度は正の相関がある (棄却)

($\beta=0.109$, $p=0.344$)

回帰係数は正だが、10%水準で有意な相関は見られなかった。よってこの仮説は棄却される。

H2: ブログの文字数とブログ炎上度は正の相関がある (棄却)

($\beta=-0.362$, $p=0.719$)

回帰係数は負で、10%水準で有意な相関は見られなかった。よってこの仮説は棄却される。

H4: 著者実名性とブログ炎上度は正の相関がある(棄却)

($\beta=0.201$, $p=0.118$)

回帰係数は正だが、10%水準で有意な相関は見られなかった。よってこの仮説は棄却される。

H5:ソーシャルブックマーク数とブログ炎上度は正の相関がある (棄却)

($\beta=0.66$, $p=0.599$)

回帰係数は正だが、10%水準で有意な相関は見られなかった。よってこの仮説は棄却される。

表3 重回帰分析結果① ブログのメッセージと炎上を促進する機能とサービスについての仮説の検定

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確立	
		B	標準偏差誤差	ベータ			
1	(定数)	347.686	363.761		.956	.344	.
	ブログ炎上日数	16.388	19.495	.109	.841	.404	
	文字数	-.077	.214	-.047	-.362	.719	
	ソーシャルブックマーク数	2.050	3.870	.066	.530	.599	
	言及ブログ数	44.483	13.083	.427	3.400	.001	***
	ニュースとまとめサイト	511.383	153.674	.410	3.328	.002	***
	著者実名性	205.778	377.836	.067	.545	.588	.

R² = 0.143 従属変数 ブログコメント数

***:1%水準で有意 **:5%水準で有意 *:10%水準で有意

表2 重回帰分析結果①

2) ブログのメッセージ性の高さについての仮説について重回帰分析を用いて仮説を検証した結果下記の通りとなった。

- ①不謹慎発言や反社会的行為の自慢によるメッセージ性が高いもの
- ②評価が曖昧な社会的争点についてのメッセージ性が高いもの
- ③特定の対象への誹謗中傷のメッセージ性が高いもの
- ④企業による社会的責任の不履行についてのメッセージ性が高いもの
- ⑤その他のメッセージ性が高いもの

H3-1: 不謹慎発言や反社会的行為の自慢によるメッセージ性の高さとブログ炎上度は正の相関がある (棄却)

($\beta = -1.71, p = 0.192$)

回帰係数は正で、10%水準で有意な相関は見られなかった。よってこの仮説は棄却される。

H3-2: 評価が曖昧な社会的争点についてのメッセージ性の高さとブログ炎上度は正の相関がある (棄却)

($\beta = -.060, p = 0.651$)

回帰係数は正で、10%水準で有意な相関は見られなかった。よってこの仮説は棄却される。

H3-3: 特定の対象への誹謗中傷についてのメッセージ性の高さとブログ炎上度は正の相関がある (採択)

($\beta = 0.377, p = 0.003$)

回帰係数は正で、1%水準で有意な相関がみられた。よってこの仮説は採択される。

H3-4: 企業による社会的責任の不履行についてのメッセージ性の高さとブログ炎上度は正の相関がある (棄却)

($\beta = -.051, p = 0.696$)

回帰係数は正で、10%水準で有意な相関は見られなかった。よってこの仮説は棄却される。

モデル	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	
	B	標準偏差誤差	ベータ			
(定数)	471.346	259.212		1.818	.074	
不謹慎発言や反社会的行為	-475.742	360.438	-.171	-1.320	.192	
評価が曖昧な社会的争点についての言及	-87.363	191.926	.060	-.455	.651	
特定の対象への誹謗中傷	510.410	164.633	.377	3.100	.003	**
企業による社会的責任の不履行	-59.1483	150.861	-.051	-.392	.696	
その他	-43.194	166.251	-0.34	-.260	.796	

R²=0.099 従属変数 ブログコメント数

***:1%水準で有意 **:5%水準で有意 *:10%水準で有意

7. 考察

7-1 各仮説への考察

H1: ブログの炎上日数とブログ炎上度は正の相関がある

→棄却 ($\beta = -0.109, p = 0.344$)

回帰係数は正だが、10%水準で有意な相関は見られなかった。よってこの仮説は棄却される。

ブログの炎上日数とブログの炎上度について先行研究では炎上が長期間にわたればわたるほどブログの炎上度は高まるということであったが、実際は棄却された。これは、ブログの炎上、すなわちコメントスクラムを行うネットユーザーがブログ作者に対して長期の反感感情に基づいてコメントスクラムを行っているのではなくあくまで短期的な感情に基づいてコメントスクラムを行っているためであると考えられる。それと同時に今回の研究では閉鎖、存続しているブログの両者のデータに基づいて分析を行ったため、炎上日数が少なめに算出されたということも考えられる。

閉鎖されたブログに対するコメントは2ちゃんねるといった大型掲示板や他のブログサイトなどで意見が交わされるため、そちらも調査対象として検証すべきことが今後の課題として考えられるだろう。

H2: ブログの文字数とブログ炎上度は正の相関がある

→棄却 ($\beta = -0.362, p = 0.719$)

回帰係数は負で、10%水準で有意な相関は見られなかった。よってこの仮説は棄却される。

文字総数とブログ炎上度は正の相関が見られないことがわかった。これはブログ炎上がメッセージの分量に起因するものではなく、失言や中傷といったメッセージの種類に起因するものが多いためと考えられる。すなわち炎上行為を行うネットユーザーは筆者の主張論に対しての意見を行い筆者との対話を求めているものではなく、あくまで一方的に筆者に対して自身の正義感に基づいた感情をコメントとして行っているのではないかと予想される。

H3-1: 不謹慎発言や反社会的行為の自慢によるメッセージ性の高さと**ブログ炎上度**は**正の相関**がある

→**棄却** ($\beta = -1.71, p = 0.192$)

回帰係数は正で、10%水準で有意な相関は見られなかった。よってこの仮説は棄却される。

H3-2: 評価が曖昧な社会的争点についてのメッセージ性の高さと**ブログ炎上度**は**正の相関**がある

→**棄却** ($\beta = -.060, p = 0.651$)

回帰係数は正で、10%水準で有意な相関は見られなかった。よってこの仮説は棄却される。

H3-3: 特定の対象への誹謗中傷についてのメッセージ性の高さと**ブログ炎上度**は**正の相関**がある

→**採択** ($\beta = 0.377, p = 0.003$)

回帰係数は正で、1%水準で有意な相関がみられた。よってこの仮説は採択される。

H3-4: 企業による社会的責任の不履行についてのメッセージ性の高さと**ブログ炎上度**は**正の相関**がある

→**棄却** ($\beta = -.051, p = 0.696$)

回帰係数は正で、10%水準で有意な相関は見られなかった。よってこの仮説は棄却される。

事例研究では上記4種類のメッセージ性をもつブログが炎上しやすいと定義されていたが、検証の結果採択されたのが、H3-3:特定の対象への誹謗中傷についてのメッセージ性の高さ

と**ブログ炎上度**は**正の相関**がある だけとなった。サンプル数や炎上度の定義により結果は異なるものと推測されるが、特定の対象への誹謗中傷をおこなっているメッセージ性の高いブログは特に炎上を招きやすいことがわかった。 _

H4 : 著者実名性とブログ炎上度は正の相関がある

→棄却 ($\beta=0, 201, p=0.118$)

回帰係数は正だが、10%水準で有意な相関は見られなかった。よってこの仮説は棄却される。

著者の実名の有無に関しては著者が実名であると平均してブログ炎上度が高いが採択には至らなかった。サンプル数が多ければ採択されるものと考ええる。この理由としてはやはり、実名である方が著者のブログ上での発言や対応への責任が問われやすいからであると推測される

H5: ソーシャルブックマーク数とブログ炎上度は正の相関がある

→棄却 ($\beta=0, 66, p=0.599$)

回帰係数は正だが、10%水準で有意な相関は見られなかった。よってこの仮説は棄却される。

自分が行うブックマークを共有し、今話題のサイトを共有できるソーシャルブックマークだが、ソーシャルブックマーク数とブログ炎上度には正の相関が見られないことがわかった。これはブックマークするサイトが必ずしも話題を共有するために行われているのではなく、あくまで自分が今後見返すための要素も兼ね備えていることから、削除されやすい炎上ブログに関してはソーシャルブックマークを避けているのではないかと考えられる。

H6: 言及ブログ数とブログ炎上度は正の相関がある

→採択 ($\beta=0, 427, p=0.01$)

回帰係数は正で、1%水準で有意な相関が見られた。よってこの仮説は採択された。

先行研究ではブログの炎上が様々なサイトで取り上げられブログ炎上が大規模化していくことが指摘されていたが、その指摘が裏付けられる結果となった。ブログの炎上度が高いブログは様々なブログで取り上げられることで、多くの無関係なネットユーザーにブログ炎上のことを知らしめ、ブログ炎上に対する関心を想起させていることがわかった。

H7: まとめサイト・ニュースの有無とブログ炎上度の関係

→採択 ($\beta=0, 352, p=0.005$)

回帰係数は正で、1%水準で有意な相関が見られた。よってこの仮説は採択された。

まとめサイト・ニュースの有無に関してはまとめサイト、ニュースの両者がとりあげるほどブログ炎上度が高いことがわかった。またまとめサイトやニュースがなければいほど事例に関しては平均してブログ炎上度が低いことがわか

った。

7-2 全体への考察と今後の課題

今回の検証を通じてブログ炎上の実態がより明らかになった。まずブログの炎上日数とブログ炎上度に正の相関が認められなかったことから、ブログの炎上は長期にわたってコメントスクラムが押し寄せ続けるものではなく、瞬発的、平均して1週間程度のみコメントが押し寄せる一過性のものであることがはっきりした。そのためブログ炎上への対策が最も重要となるのは炎上してからの1週間が最も重要な期間であることが判明したこの1週間での著者の対応次第でブログ炎上の度合いが大きく変わるものと予想される。ブログの文字数とブログ炎上度に正の相関が見られないことから、ブログ炎上はブログ上で展開された筆者の持論に対する意見に対しての批判という性質というよりもむしろ、特定の対象への中傷、筆者の過失、あるいは不過失に関わらない落ち度に対しての叱責や揚げ足とりといった感情的な要素が多分にあるものと確認された。そのためブログ炎上を避けるための対策としては、まず第一に著者がどのような認識であれブログ上での発言が公の場での発言であることを改めて認識すべきである。これにより、不用意な発言を行わないのが炎上防止の最有力対策である。そしてもし自身のブログが炎上してしまった場合はまず自身に非があるのかないのか、そして書かれていることは批判的な意見なのかを確認し、そして自分に非があるために批判的な意見が寄せられている場合はまず謝罪を行い、言い訳を行わず簡素な対応を行う必要がある。なぜなら、謝罪に加えて新たなトピックを持ち出すと多くのネットユーザー注目している炎上期間中においてはそのトピックに対しても批判が起きやすくなってしまからである。また炎上したブログに関しては可能な限り放置しておくのが最善な選択肢であることが予想される。なぜならばブログを削除することによってネットユーザーの批判の窓口がなくなってしまうため、2ちゃんねるのような巨大掲示板や他のブログでの批判が行われることでさらなる無関係なネットユーザーを巻き込んでしまうのと同時に、勤務先、関係機関への電話といった直接的な抗議活動が行われてしまうからである。自分の過失を認め真摯に謝意を示し、相手の批判を黙殺するような態度をとらなければブログの炎上は1週間程度で収まるだろう。

また、今後の課題としては現在の SNS や twitter といった様々な形態のブログが登場したことにより炎上発生のあるり方の変化である。例えば、より生活に密

着した日常をつぶやくことができる twitter では、自分の何気ない一言の投稿がインサイダー取引につながったり、空き巣被害につながったりとちがった形でリスクが発生している。このような新しい炎上ともいべきリスクについて今後さらなる検証が必要であろう。さらに、今回は炎上したブログのデータに基づいた分析を行い、実際にコメントスクラムを形成するネットユーザーの認識に対する検証が十分であるとは言い難い結果となった。そこで今後は実際にブログ炎上に立ちあったユーザーの認識をもとに検証を進めて行く必要もあるだろう。

参考文献

- 萩上チキ (2007) 『ウェブ炎上 ネット群衆の暴走と可能性』 ちくま新書
- 尾形誠規 (2009) 『実録！ブログ炎上』 鉄人社
- 石川幸憲 (2003) 『インターネットは民主主義の敵か』 毎日新聞社
- 平井智尚 (2007) 「インターネットにおける「ブログ炎上」に関する考察」
- 伊地知晋一 (2009) 『ネット炎上で会社が潰れる』 WAVE 出版
IT+PLUS -ブログ炎上- 斉摘発と「犯罪の経済学」 -
<http://it.nikkei.co.jp/internet/news/index.aspx?n=MMIT2I000008022009>
「IT用語辞典 e-Words : フレーミングとは【flaming】 - 意味・解説」
から引用
- 平成 21 年中のサイバー犯罪の検挙及び相談受理状況について
<http://121.50.59.23/cyber/statics/h15/html15.htm>
「警察庁 平成 21 年度広報資料」から引用

付属資料

ブログ調査データ統計表

ブログ名	炎上日数	該当記事 コメント 数	該当記事 文字数	ソーシャ ルブック マーク数	言及プロ グ数	まとめサ イト	メッセー ジ性	著者実名 性
ブログ番 号	24時間以 内のコメ ントが途 絶えるま で	現存で確 認できる 範囲まで	該当記事 本文の文 字数	記事への はてブ数	google プ ログ検索 で炎上期 間中の 「タイト ル プロ グ炎上」検 索結果数	0 無し 1まとめサ イト 2ニ ュース 3 まとめサ イト・ニュ ース	1 不謹慎 発言・反社 会的行為 2 社会的 争点への 言及 3 特定の対 象への誹 謗中傷 4 企業に よる社会 的責任の 不履行 5 その他	0 匿名 1 実名
1	1	1999	787	168	15	2	3	1
2	5	1000	403	131	8	3	1	0
3	8	1046			24	3	1	1
4	2	1530			91	3	2	1
5	29	10000	275	3	90	3	3	1
6	1	1105	698	4	4	2	2	1
7			1407	79	135	3	2	1
8	2	119	377	2	52	2	4	1
9	6	413	863	9	6	0	2	1
10	1	955	376	426	81	0	4	1
11	71	179	2858	26	6	2	2	0
12	2	299	718	9	6	0	4	1
13	1	760	1793	0	22	0	1	1
14	7	560	90	21	16	2	4	1

15	21	92	309	1	2	0	2	1
16	5	63	150	0	2	0	1	1
17	43	467	210	0	2	0	1	1
18	4	40	126	0	0	0	2	1
19	1	51	59	0	0	0	1	0
20	12	652	762	0	5	0	2	1
21	1	73	2515	1	3	0	3	0
22	1	206	175	18	6	0	2	1
23	8	103	386	0	5	0	2	1
24	13	407	845	8	2	0	2	1
25	2	2817	346	16	7	2	3	1
26	2	120	4946	0	2	0	1	1
27	4	249	558	1	1	0	1	1
28	2	68	1946	0	1	0	1	0
29	3	375	701	3	2	0	1	1
30	14	136	291	2	1	0	3	0
31	7	1013	627	3	18	0	3	1
32	1	244	535	26	33	0	2	1
33	4	942	306	2	3	0	4	1
34	1	6343	60	0	5	0	1	1
35	11	291	1603	18	12	0	2	0
36	13	95	1467	53	14	0	2	0
37	1	104	472	0	0	0	1	1
38	5	54	1202	8	2	0	5	0
39	30	704	1145	12	12	3	1	1
40	1	130	502	0	9	0	1	0
41	2	148	245	3	42	2	1	1
42	3	633	188	10	9	2	1	0
43	7	412	926	18	10	2	1	1
44	3	293	296	4	3	0	4	1
45	1	385	797	2	1	0	1	0
46	18	1234	670	0	3	2	1	1
47	4	7791	88	2	9	2	1	1

48	28	414	776	66	2	0	2	1
49	11	254	1875	1	1	0	2	1
50	5	172		4	9	0	1	1
51	3	259	142	0	4	0	1	0
52	3	475	7	21	1	0	1	0
53	2	1118	463	12	10	0	5	0
54	5	1200	401	93	9	2	1	1
55	3	504	346	0	2	0	2	0
56	4	828	4549	6	0	0	5	0
57	3	1000	839	4	15	2	1	1
58	5	400	241	22	4	2	1	1
59	3	500		3	4	2	1	1
60	11	130	1187	11	26	2	3	1
61	29	3960	5057	22	30	2	2	1
62	3	300	195	6	4	2	1	1
63	11	376	72	6	1	2	3	1